

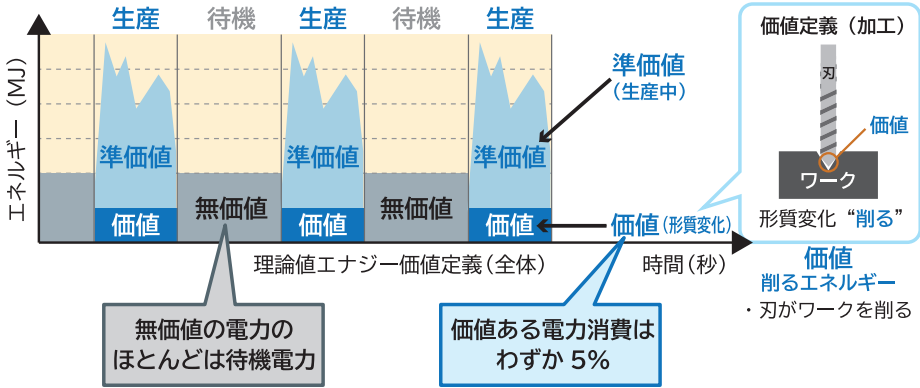


IoTによる秒単位の見える化で省エネ

「必要な時」に、「必要な場所」で、「必要な量」のみエネルギーを使うのが省エネの基本です。この考えは生産活動でも同じです。生産に必要な「本質的な価値」にのみエネルギーを使い、それ以外のエネルギーを最少化することで、革新的な省エネが実現できます。

事例 『理論値エネルギー』×『IoT』で電力3割削減

「IoT見える化システム」で生産に使用しているエネルギーを秒単位で計測・分析。ヤマハ発動機独自の省エネ手法である「理論値エネルギー」に基づき、生産に本質的に必要なエネルギーのみを「価値」、それ以外を「準価値」「無価値」に分類。「無価値」をゼロに、「準価値」を最少化することでコストゼロで従来比32%の省エネを実現。



理論値エネルギー思考に基づき、「価値のあるエネルギー以外は全てムダ」という視点で、待機中の設備自動停止を徹底することで、二輪車用クランクシャフト加工ラインで大幅な省エネを実現しました。

ヤマハ発動機株式会社 浜北工場 様 (静岡県浜北市)

世界有数の二輪車メーカーの創業の地として発展してきた浜北工場は、現在は加工、鍛造、熱処理を主要工程とする二輪、マリン部品の供給拠点である。従業員490名、第一種エネルギー管理指定工場。

